

# 七日間にわたり 会員への説明会開催

五月二十五日から六月二日までの七日間、公社の会員（百二十余名）を対象に、角田農業戦略プランを実現するための、「プロジェクトチーム」立ち上げに向けた地区別説明会を、JA七支店を会場に夜七時から開きました。説明会では、これまでの経過を報告した後、プロジェクトチームについて説明。出席した会員から活発な意見が出されました。

どの会場も共通した課題として出された意見は、「農地の集積」、「農作業の受委託」、「転作関係」、「家畜の糞尿処理対策」でした。



▲どの会場も真剣に

その基本にあるのは、安定した経営を図るには、どのような課題を重視し、優先して取り組むかが重要。そのためには、農業を基幹的に担っている人のみならず、兼業農家の方々をも含め、理解と協力を得て、適切な役割の分担をしながら、地域全体がメリットを受けられるようにして行くことが、将来の展望へ結びつくものと確信しました。

## 〈主なご意見〉

- 転作に伴う受託料の調整が課題である。
- 転作が本作りになっていく。売れる物づくりへの取り組みが基本である。
- 担い手農家への農地集積は、地域内で対応するのが適切ではないか。
- 農地の集積で「受け手側」をいかに育成していくかが課題である。
- 受託者は現状維持が精一杯であり、条件の悪い農地は受け取りたくないのが現実である。

○ 出し手側のこだわりを無くすような意識改革づくりのムードを全体に作り上げていく方策の検討が必要である。

○ 後継者の育成が重要課題であり、数年後には担い手が不在になる可能性も考えられる。

○ 転作を定着させるには適地への農地集積が基本である。

○ 転作作物は麦と大豆が主流であるが、他の作物への検討もしていくべきである。

○ 直売所の栽培基準（品物の安全基準等）をつくりながら、供給体制をいかに作り上げていくかが課題である。

○ 農地問題はトップレベルでの基本的方向付けと、地域全体での協力的体制づくりが課題である。

○ 農地の集積は「出し手側」の理解と協力が重要でありその体制づくりが課題である。

○ プロジェクトを進めるタタキ台として、現状認識をすすめる資料が必要である。

○ プロジェクトチームの支援体制として、関係機関の協力を確認されたい。

### 編集・発行

社団法人  
角田市農業振興公社  
〒981-1592  
宮城県角田市角田字大坊41  
角田市役所 東庁舎3階  
電話 0224-63-2328  
ファクス 0224-61-1521  
e-メール Kakunou@ruby.ocn.ne.jp

### 会員の加入状況

(平成12年4月24日現在)

個人会員 103名  
組織会員 11組織  
団体会員 7団体  
特別会員 募集中

(東京都目黒区役所職員、緑ヶ丘小学校関係者、みやぎ生協関係者等で募集中)

### お知らせ

- ◇ プロジェクトチーム発足式  
日時 7月11日(火)  
午後2時～  
場所 オークプラザ
- ◇ 目黒区緑ヶ丘小学校農業体験学習・秋  
日時 9月下旬
- ◇ 農地保有合理化法人としての業務（農地の貸借を行うもの）は、10月1日から予定。